

学校だより 藤の木

木がらしに笛吹く神の
御子二人鶯のもみぢを
たぐりて消えぬ
与謝野鉄幹

発行者 横浜市南区大岡4 44-1 電話 045(714)2817 藤の木中学校 下山 和美

「ボイスオブ・ユース開かれる」

今年度も南区青少年指導員協議会主催による「ボイスオブ・ユース」が南公会堂で開催されました。小・中・高校生による意見発表ですが、本校では7名の皆さんが入選しました。代表して3年生の塩瀬健太郎君が「私の夢」というテーマのもとに「将来は音楽に関する仕事につきたい」と自分の夢について堂々と発表し多くの拍手をもらいました。

それぞれの思いを自分の言葉で語り伝え、その多くが心をうつものばかりで大変有意義な会となり、本校でも生徒が自分の思いを発表しあえるような場を確保したいとも思った時間でした。

そうした翌日、新聞にある記事が載っていました。朝会で話しましたが、それは母親と娘さんのことばをまとめた小冊子の中からの抜粋したものでした。

見出しは確か「心を癒す 褒め言葉」だったと思いますが？

- 「あなたのいれてくれるお茶はいつもおいしいな」
- 「人の見ていない所で実は頑張っているんだよ」
- 「なかなか輝いているよ」
- 「花を育てるのが上手なんだよね」
- 「やっぱりウチが一番いいや」
- 「楽になったよ」
- 「うん、いい味付け」
- 「ただそばにいてくれるだけでいいんだ」
- 「あなたのことを誇りに思う」



これらの言葉から温かい家庭の情景を彷彿とさせることができますし、心も和みます。揚げ足をとるような、また相手をおとしめるような言動を多く耳にする昨今、ほっとさせられる言葉です。記事の最後にはこんな言葉もありました。「お母さん、生んでくれてありがとう」

「今までの人生で5番目に嬉しい！！」

再び言葉の話になりますが、やはり新聞にこんな記事を見つけました。

パラリンピックの男子400メートル、800メートル車いす競技で金メダルに輝いた伊藤知世選手は、金メダルの喜びを次のような言葉であらわしたそうです。

「今までの人生で5番目に嬉しい。子どもが4人いるので、その子たちが生まれたときにはもっと嬉しかった。」

とんでもないニュースが毎日のように新聞やテレビを賑わし、減入りそうな日が続いておりますが、なんと優しくしかも美しい言葉でしょうか。この記事を読みながら山上憶良（やまのうえのおくら）という万葉の歌人を思い出しました。

「瓜食めば 子ども思ほゆ 栗食めば まして 偲はゆ いづくより 来たりしものそ まなひにもとなかりて 安眠しなさぬ」

旅にでた憶良の子どもを思う気持ちがよく表れた歌です。「瓜を食べても栗を食べても子どものことが思われてならない。子どもは一体どこからやって来たのだろうか。目の前にしきりにちらついて私を眠らせてくれない。」またこんな歌もあります。

「憶良らは 今は罷らん 子泣くらん そを負ふ母も 吾を待つらんそ」

「自分はもうこれでおいとまいたしまししょう。子どもも泣いているでしょうし、その子を背負う母親も私を待っているでしょうから」

